

2026 年度 公募キャンプ

安全管理体制について

令和 8 年 7 月版

同志社 ワーキングコーラス

問い合わせ用メール: DoWorkingChorus@gmail.com

目次

第1章：DWCの安全に対する考え方と基本体制	2
1. 保護者の皆様へのお約束	2
2. きめ細やかな見守りを実現する「手厚い人員配置」	2
3. 単独行動の禁止と「強固な連携・通信体制」	2
第2章：事前の備えと健康管理	3
1. 「健康調査票」に基づく事前の状態把握	3
2. 食物アレルギーおよび持病への厳格な対応	3
3. 即応性を高める「普通救命講習修了者」の班内配置	4
第3章：活動中のリスク管理と対策	4
1. 悪天候（大雨・落雷など）への迅速な対応	4
2. 熱中症の徹底した予防と対策	5
3. 野生動物・害虫（クマ・ハチ・マダニ等）への対策	5
第4章：緊急時（事故・傷病・大規模災害）の対応フローおよび免責事項	7
1. 事故・体調不良時の初期対応と受診判断	7
2. 保護者様への迅速なご連絡体制	8
3. 「福祉行事保険」への加入と免責事項について【重要】	8
4. 大規模災害（地震・火災等）発生時の対応方針	8

第1章：DWCの安全に対する考え方と基本体制

1. 保護者の皆様へのお約束

同志社ワーキングコーラス（DWC）は、大学生主体のボランティアサークルとして、子どもたちに「仲間と共に新しいことへ挑戦する経験」を届けるため、情熱を持って活動に取り組んでいます。

私たちがキャンプを運営する上で最も大切にしているのは、「安全とは守るものではなく、自ら作り出すもの」という考え方です。これは、単に「危険なことをしない」という受け身の姿勢ではなく、大人たちが事前に活動エリアの危険を予測・排除し、絶対的な安全の土台を構築するという攻めの姿勢を意味します。子どもたちが心から安心して新しいことに挑戦できるよう、スタッフ一人ひとりがこの理念を胸に刻み、安全確保に全力を尽くします。

また、本キャンプの活動拠点となる京都市野外活動施設「花背山の家」のプロフェッショナルな職員の皆様とも事前準備の段階から密に連携を図り、施設と団体が一体となった万全の安全管理体制で子どもたちをお預かりいたします。

2. きめ細やかな見守りを実現する「手厚い人員配置」

子どもたち一人ひとりの小さな変化を見逃さず、心に寄り添ったサポートを行うため、本キャンプでは一般的なキャンプよりも非常に手厚い人員配置を採用しております。

- 「子ども6名に対し、大学生カウンセラー3名」の密な体制

各班には、専属の大学生カウンセラーが常に3名付き添います。ほぼマンツーマンに近いこの体制により、活動中のケガや事故を未然に防ぐ物理的な安全確保はもちろんのこと、「初めて親元を離れて寂しい」「お友達の輪にうまく入れない」といったお子様の細やかな心の揺れ動きにも、いち早く気づきケアすることができます。

- **バディシステム（ペア行動）の導入** 大人からの見守りに加え、子どもたち自身にも「自分の安全の確認」と「お友達への配慮」を促すため、活動中は2人1組の「バディ」を作って行動します。子ども同士がお互いを気に掛ける仕組みを取り入れることで、集団としての安全意識をさらに高めます。

3. 単独行動の禁止と「強固な連携・通信体制」

広大な自然環境の中で安全を担保するため、個別の班がバラバラに行動することは一切ありません。すべての活動において厳格な行動ルールと通信網を定めています。

- 「目と声が届く範囲」での集団行動の徹底

全ての班は、必ず「カウンセラー代表（大学生スタッフ 15 名の統括者）」の目が直接届き、声が届く範囲内でまとまって行動することを絶対のルールとしています。死角を作らず、常に複数の大人の目が全体に行き届く環境を維持します。

- **トランシーバーによる瞬時の情報集約**

キャンプ中は、「全体責任者（2 名中 1 名が常時携帯）」「カウンセラー代表」「運営スタッフ代表」の各リーダーがトランシーバーを常時携帯しております。万が一のケガや体調不良、天候の急変などが発生した際には、現場のカウンセラーから代表者へ瞬時に情報が集約されます。

- **「花背山の家」本部との直接通信**

私たちが所持するトランシーバーは、DWC のスタッフ間だけでなく、施設の「花背山の家」本部とも直接通信が可能な状態に設定されています。緊急時には学生だけで判断を抱え込まず、施設の専門職員と即座に連携し、責任者の指揮のもとで最も安全かつ迅速な対応をとれる体制を確立しております。

第 2 章：事前の備えと健康管理

1. 「健康調査票」に基づく事前の状態把握

お子様が安全に、そして心から楽しくキャンプを過ごせるよう、当団体では事前の情報収集を徹底しております。ご参加が決定した皆様には、事前に詳細な「健康調査票」をご提出いただきます。この調査票を通じて、乗り物酔いのしやすさ、喘息やアレルギーの有無、平熱、定期的なお薬の服用の有無などを、キャンプ当日までに運営スタッフ間で正確に把握いたします。また、緊急時のご連絡先や、かかりつけの医療機関（ご希望の受診先）についても事前にお伺いし、万が一の事態に備えた個別のアクションプランを構築いたします。お預かりした機微情報は、当団体のプライバシーポリシーに則り、お子様の安全管理を担う必要最小限のスタッフ間のみで厳重に共有いたします。

2. 食物アレルギーおよび持病への厳格な対応

食物アレルギーや特別な配慮が必要な持病をお持ちのお子様については、さらに詳細な「食物アレルギー等 児童・生徒連絡票」や個別の「連絡票」をご提出いただき、万全の対応体制を整えます。

- **食物アレルギーへの対応方針** 当キャンプの食事は「花背山の家」の食堂を利用、または野外炊事を実施いたします。施設の食堂は完全なアレルギー隔離を行える設備を有しておらず、微量混入（コンタミネーション）の可能性や、調理器具・揚げ

油の共有といった環境上の制約がございます。お子様の命を守ることを最優先とするため、アレルギーの程度（アナフィラキシーの既往やエピペンの有無など）を詳細に確認させていただきます。安全上の観点から食堂での提供が困難と判断される場合には、保護者様に「持参食」のご用意をお願いする等、施設側と密に連携しながら事故を完全に防ぐための対応をご提案いたします。

- **持病や服薬の管理** 日常なお薬の服用が必要なお子様については、服薬のタイミングや注意事項をスタッフが事前に把握し、飲み忘れや体調変化がないよう、担当カウンセラーが責任を持って見守り・サポートを行います。

3. 即応性を高める「普通救命講習修了者」の班内配置

キャンプ中のケガや急な体調不良に対し、一分一秒を争う初期対応を可能にするため、当団体ならではの救護体制を敷いております。

- **有資格者の常時帯同**
本キャンプでは、消防署等で心肺蘇生法やAEDの使用方法などを学ぶ「普通救命講習」を修了したスタッフを必ず2名以上配置いたします。
- **「現場」にいる強み**
これらの有資格者は、本部テントで待機するのではなく、子どもたちと常に行動を共にする「カウンセラー」として班の中に直接入り込みます。これにより、お子様のすぐそばに常に救急対応の知識を持った大人がいる状態を作り出し、山の中や活動エリアのどこであっても、異変発生時に即座に応急処置を開始できる体制を実現しております。

第3章：活動中のリスク管理と対策

1. 悪天候（大雨・落雷など）への迅速な対応

大自然の中での活動において、天候の急変は常に予測しておくべきリスクです。当団体では、気象庁の発表する注意報や警報、および雨雲レーダーなどの最新の気象情報を常に監視しながら活動を行います。

- **活動の変更・中止基準** 大雨や落雷の危険性が高まった場合、あるいは急な天候の悪化が見られた場合には、予定していたプログラムを速やかに中断し、屋内の安全なプログラムへの変更や中止を責任者が決断いたします。
- **安全な場所への避難** 活動中に雷鳴が聞こえた場合などは、決して無理をせず、すべての班が直ちに「花背山の家」の指定された安全な屋内施設へ避難します。その

際も、第1章で定めた「代表者間のトランシーバー通信」を活用し、全グループの確実な避難完了を本部がリアルタイムで把握・管理いたします。

2. 熱中症の徹底した予防と対策

夏の野外活動において最も注意すべき熱中症に対しても、子どもたちの体調変化を常に見守る「専属カウンセラー」の存在が大きな防御壁となります。

- **こまめな水分・塩分補給と休息** 子どもたちが喉の渇きを訴える前に、カウンセラーが定期的に声をかけ、日陰でのこまめな休憩と水分・塩分補給を徹底いたします。
- **気温・暑さ指数（WBGT）に基づく判断** 活動中の気温や暑さ指数が危険な水準に達した場合、ただちに活動時間を短縮する、あるいは屋内の涼しい場所での活動に切り替えるなど、熱中症の発症を未然に防ぐための柔軟な対応をとります。

3. 野生動物・害虫（クマ・ハチ・マダニ等）への対策

豊かな自然環境には、野生動物や害虫との遭遇リスクも存在します。当団体では、施設と連携した事前の情報収集と、当日のルール徹底により、これらのリスクを最小限に抑え込みます。

- **事前の安全確認と情報連携** 熊などの野生動物の出没状況については、当日までに「花背山の家」の現地職員と密に情報共有を行います。万が一、活動エリア付近で目撃情報があった場合には、活動ルートの変更や野外プログラムの中止を直ちに決定いたします。
- **服装や行動ルールの徹底** ハチやマダニなどの害虫被害を防ぐため、活動場所の特性に応じて長袖・長ズボン等の着用を促し、肌の露出を減らすよう指導いたします。また、「むやみに茂みに立ち入らない」「ハチを見つけても騒がず刺激しない」といった安全ルールを子どもたちに事前にしっかりと伝え、行動を共にしながら見守ります。
- **万が一遭遇・被害に遭った場合の備え** 各班の担当者は応急処置用のキット（ポイズンリムーバー等を含む）を携行しており、万が一虫刺されなどの被害に遭った際にも、本部への連絡と並行してその場で迅速な初期処置を行える体制を整えております。

《参照》花背山の家におけるクマ対策等について

熊の出没に関する注意事項について、利用施設では以下の通り定められています。

「花背山の家では、お客様に安心してご利用していただけるよう、日頃から様々な安全

対策の徹底に 努めていますが、現在、本施設で実施しているクマ対策等についてお知らせいたします。 今後、周辺でクマの目撃情報等があった場合は、速やかに HP など
で情報提供をさせていただきます。

＜花背山の家付近でのクマ目撃情報等について（昨年 10 / 11 以降、付近での目撃
情報なし）＞

・昨年 10 月 11 日に、花背山の家付近（約 2 Km 北側）の国道で、通行中の車からツ
キノワグマらしきものの目撃情報がありましたが、その後、花背山の家周辺での目撃
情報はありません。

・目撃情報以降、現場や花背山の家敷地周辺、敷地内を所員等が毎日点検を続けて
いますが、ツキノワグマの目撃情報や活動形跡は確認されていません。

・また、平成 5 年度の花背山の家開所以来、敷地内及びその隣接区域において、クマ
の出没や糞など の痕跡が発見されたことはありません。

・なお、地元の猟友会の方からは、花背山の家はクマにとって魅力的な場所ではない
とお聞きしています。（多くの人の出入りがある。野外炊事等で火や煙が出る。木の実
などの餌が少ない。）

＜花背山の家で実施しているクマ対策について＞

○地域での情報収集・情報共有 ・公共機関（左京区役所、花背出張所、警察）からの
情報把握 ・花背地域、地元の方との情報共有

○所員などによる施設内の巡回・点検 ・所員による利用者の活動場所周辺の安全確認
（活動時間前） ・警備員による施設内の巡回点検（1 日 3 回） ・敷地周囲の林道
（ゴシ谷）の巡回、安全確認（音での追払い等）」

引用元

資料名：『花背山の家におけるクマ対策等について(pdf)』

入手元 URL： [http://web.kyoto-inet.or.jp/org/hanasell/newHPphoto/newHP-
pdf\(sin\)/r8.important%20information.pdf](http://web.kyoto-inet.or.jp/org/hanasell/newHPphoto/newHP-pdf(sin)/r8.important%20information.pdf)

確認日： 2026 年 7 月 25 日閲覧

項目	実施内容
蜂（スズメ蜂等）	スズメバチ等の繁殖を防ぐため、敷地内の各所に女王蜂を捕獲するための罠を設置しています。また、蜂又は蜂の巣が発見された場合は、速やかに駆除を行う体制を整えています。（駆除作業は安全に配慮した方法で行います。）
熊、イノシシ等、 人に危害を加える おそれがある野生動物	熊については、地域及び地元警察（花背駐在所）等と連携し、周辺地域での出没情報等を共有しています。目撃情報があれば、お客様に注意喚起するとともに、状況に応じて活動プログラムの変更等をする場合があります。
	その他、人に危害を加えるおそれがある野生動物については、日中に所内に入り込むことはありませんが、万一の場合には地元警察（花背出張所）等と連携し、花背山の家職員が対応にあたります。
敷地内の危険箇所の点検	職員が敷地内を日常的に巡回しており、活動で使用する予定の場所については特に重点的に点検し、危険箇所が発見された場合はその修繕を行うなど、適切に対応しています。
自然災害等への対応	台風を含む大雨・暴風や落雷等については、天気予報等でその状況を常に把握しています。これらの情報を基に状況に応じて活動プログラムの変更等をする場合があります。 また、台風を含む大雨・暴風の通過後は必ず敷地内の被害状況を確認し、危険箇所を発見した場合は、速やかに当該箇所を修繕又は使用停止する等の必要な措置を取ります。

第4章：緊急時（事故・傷病・大規模災害）の対応フロー および免責事項

1. 事故・体調不良時の初期対応と受診判断

万が一、活動中にお子様のケガや体調不良が発生した場合は、速やかに班に帯同する有資格者（普通救命講習修了者）やカウンセラーが初期対応・応急処置を行います。その後、直ちにトランシーバーで本部へ状況を報告し、全体責任者および「花背山の家」の専門職員と連携して対応を決定いたします。症状が重い場合や、少しでも判断に迷うような症状が見られる場合には、決して学生だけの判断で済ませることはせず、躊躇なく救急車の要請や最寄りの医療機関への搬送を行います。

2. 保護者様への迅速なご連絡体制

お子様が医療機関を受診することになった場合や、通常とは異なる大きな体調不良・ケガが発生した場合には、本部責任者より速やかに保護者様の「緊急連絡先」へお電話にて状況をご報告いたします。

お子様の現在の状態、受診先の病院名、そして今後の対応方針について、隠すことなく正確にお伝えし、保護者様のご意向を確認しながら最善の対応をとらせていただきます。

3. 「福祉行事保険」への加入と免責事項について【重要】

当団体では、お子様の安全を守るための体制構築に万全を期しておりますが、大自然を舞台とした野外活動の特性上、予期せぬケガや事故のリスクを完全にゼロにすることは困難です。

そのため、参加されるお子様全員を対象に「福祉行事保険」に加入し、万一の事態に対する備えを整えております。

誠に恐れ入りますが、当団体（同志社ワーキングコーラス）に故意または重大な過失がある場合を除き、活動中に発生した事故やケガ等に対する補償・対応につきましては、加入する「福祉行事保険」の適用・補償範囲内とさせていただきます。

本キャンプが、青少年の健全育成を目的とした大学生による非営利のボランティア活動によって運営されている点をご理解いただき、本免責事項につきまして何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

4. 大規模災害（地震・火災等）発生時の対応方針

キャンプ中に大地震や施設での火災など、予測不可能な大規模災害が発生した場合には、施設のプロフェッショナルである「花背山の家」が定める避難マニュアルに則り、施設職員と密に連携して子どもたちを最も安全な場所へ誘導・避難させます。避難完了後は、本部より速やかに全参加者の安否確認を行い、状況が落ち着き次第、速やかに保護者様へご連絡いたします。交通機関の麻痺等により即時の帰宅が困難な場合におきましても、安全が確認され、保護者様に直接お子様をお引き渡しできるまで、スタッフ全員が責任を持ってお子様をお預かりいたします。